

PART 10

～授業中のパンチラ撮影～

『学校に到着。鞄で隠すことは許されない栞。できるだけ人目に付かないよう校門を入ろうとする……』

【女友達】「おはよう！ あれ、スカート変えた？」

「おはよう。うん、ちょっと気分転換で……」

「へえ、赤にしたんだ。結構ミニじゃない？」

「そうかな？」



『甲高い女子の声が周囲の注意を惹き、栞のミニスカに気付く』

「うわ、大胆！」「パンツ見えそう！」「ミスS学園で調子に乗つてんじゃない？（笑）」「赤スカートなんて誰もはないよね」「私を見てつて感じ？」

（やだ、みんな見てる……男子はいやらしい目だし、女子は軽蔑してるし、先生は呆れてる……最悪）

《校舎旧館に入ると、一斉に注目を浴びる》

「うわ、超ミニ！」「あれ、優等生の涼川さんだろ？」「どんな心境の変化？」「太もも眩しいな（笑）」

「赤の超ミニだって」「すごい自信」

（やつぱりみんな見てる……こんなスカート、短すぎ
る……）



『新館に入った栞。あと少しで2年1組の教室』

「結花」「おはよう、涼川さん。赤スカート可愛いね」

「お、おはよう……」（会いたくなかった……）

「由愛」「すつごいミニだね！ どうしたの？」

「奈々」「男子たちの間で噂広まってるよ。栞ちゃんの太ももがエッチだつて（笑）」

「え、そうなの？」



「この前の撮影もすごかつたよね！」

「下着姿で思いつきり足上げてたね（笑）」

「お願い、そのことはみんなに言わないで……」

『クラス中の注目を浴びながら。椅子に座った栞。たくしあがるスカートを慌てて押さえる。太ももが直に座面に触れて栞の羞恥を煽る』

（ああ、こんな短いスカート、無理よ……）

「おい、あれ」「太もも丸出しだな（笑）」「顔でよくやるな」「パンティ見えそうだな」

「栞ちゃん、どうしたのかな」「ミスS学園で調子に乗ってるって噂だけど」

『皆のヒソヒソ話に、身体が熱くなる栞』

【須藤からメール】『おい、登校中の写真を早く送れよ』

『前の席の洋にメッセージを送り、画像を送つてもらう』

「送りました……これで終わりにしてください」

【須藤】『なんでパンティはいてるんだよ？ ノーブラノーパンにする約束だろ』

「そんな！ それはあの時だけの話ですよね」

衣装撮影は



【須藤】『動画で誓約を確認してみるか？ なんならクラスメイトにも送つてやろうか？』

「やめてください……学校では許してください」

『仕方ないなあ……じゃあその代わりに授業中にパンチラ撮つて送ること！』

「授業中にそんなこと！ できません！」

『我がままもいい加減にしろ。前の席の宮田に撮つてもらえよ。制限時間は30分な』

《須藤は一方的に切断》

（そ、そんな……どうしたらいいの？）

《栞はしばらく躊躇つた後、洋にメッセージを送信》

『洋が驚いた顔で振り返る』

「へえ、授業中にもパンチラ撮つてほしいの?」

「う、うん……」

「変わったなあ、涼川。撮影がよほど気持ちよかつたのかな……じゃあ、小さなカメラを俺の椅子の後ろに付けるから、それで撮るよ」

「うん、分かった」（なんでそんなの持つてるのよ）

「これでよし、と。それじゃあ、リモートでシャッター切るから、少し足を開いて」

「え? う、うん……」（ちらりと背後の様子を窺う

『何も気づかず授業に集中する振りをする奈々』

（うふ、どんどん嵌つくな、栞ちゃん（笑））



『固く閉じていた足をほんの少しだけ開く栞。恥ずかしさに足が小さく震えている』

「あのさあ、足閉じてたら見えないんだけど」

「これじやあ駄目、かな！」

「駄目駄目。机の端に膝が着くくらいに開かないと」

「そ、そんな」

「早くしてくれないと、周りに怪しまれるから」

「で、でも……」

「別にいいよ。あと1分で開かなかつたらやめるから」

「分かつたから……」



『周囲の生徒の様子を気にしながら、少しづつ足を開いていく栞』

「これでどうかな?」

「駄目、もつとがばつと!」（あの涼川に堂々と工口命令できるなんて、最高!（笑））

「[...こ、これ以上無理】

「うん、これならオッケー。1分このままで

（ああ、早く終わって [...]]

【数学教師】「...涼川！」

「は、はいっ！」

「何ボケつとしてんだ。この問題を解いてみろ!」

『クラスが笑いに包まれ、頬を赤らめる栞』

『数学教師に指名され、前に出る栞』

【由愛】「できるだけ高くに書いてください」

【教師】「ああ、後ろからもよく見えるようにな」

「分かりました……」（背伸びしたら見えちゃう……）

「……涼川、早くしろ！」

「は、はいっ！」

「何ボケつとしてんだ。腹でも減ったのか？」

『クラスが笑いに包まれる。背を伸ばして板書する栞』

（お、純白パンティ！）（黙って鑑賞しよう（笑））

（あれ、わざと見せてるよね）（男子に媚びてて最低！）



PART 11

～放課後の教室でエロポーズ～

放課後

須藤：パンティの写真を撮ってもらえ

栞：え？

須藤：エロイ奴な。さっきの写真部にお願いするんだ。

栞：そ、そんな・・・分かりました

須藤：指示通りのポーズを取りますから、てお願いするんだ

『放課後。生徒達がない教室に栢と洋』

「それじゃあ、撮ってくれる?」

(机が無いと、こんなミースカ恥ずかしいな)

「分かった! ジャあカメラに笑顔向けて!」

『しばらくシャツジャーを切り続ける洋。カメラは当然、ミースカからこぼれる太ももを狙う』

「もうそろそろ、いいかな……」

(なんかエッチな目をしてる……)

「それじゃあ次のポーズ行こうか

「え、これだけで十分恥ずかしいんだけど……」

「僕の指示通りのポーズを取るつて約束したよね?」

「ただけど……」

「男子から見たら、まだまだだからね。そうだな……椅子の上に足を乗せて体育座りして」

「そ、そんなことしたら……」



『命令に逆らえず、椅子の上で体育座りをする栞』

「これじゃあ、ショーツが見えちゃう……」

「パンチラ写真撮つてつてお願ひだろ?」

「……分かつたから、早く撮つて終わらせて」

（こんな格好、信じられない……）

『最初は遠くから、徐々に近づく洋』

「表情硬いなあ。カメラ目線でにつこり笑つて」

「こんな格好で笑えるわけないでしょ！」

「あれ、指示通りにするんだよね?」

「そ、さうだけど……」



『真正面から、パンティだけの股間にカメラを向ける洋』

「はい、こっち見て笑って！」

「ここ、これでいい？」

『羞恥に膝が小刻みに震えている』



「うーん、なんか微妙な表情だな……でも可愛いから
いいや（笑）」（恥ずかしがる顔、最高！）

「もう、これで終わりでいいよね？」

「え、何言つてんの？ 次のポーズ行くよ」

「はい、顔はこっちに向けてー」（もうたまらん！）

「もう……これでいいの？」

（男子の前でこんな格好……早く終わって

「いいんだけど、もう少し身体を前に倒して

「そんな恰好したら……」

「いいねー、こっち見てー」（ケツ上げポーズ！）

©ILLUSION

「う、うん……」

（調子に乗つて……覚えてなさいよ）

「これくらいでいいかな。今度は、椅子に跨つて」

「え、跨るって……」

『いやいや椅子に跨った栞。捲れたスカートに戸惑う』

「こんな格好、無理よ！」

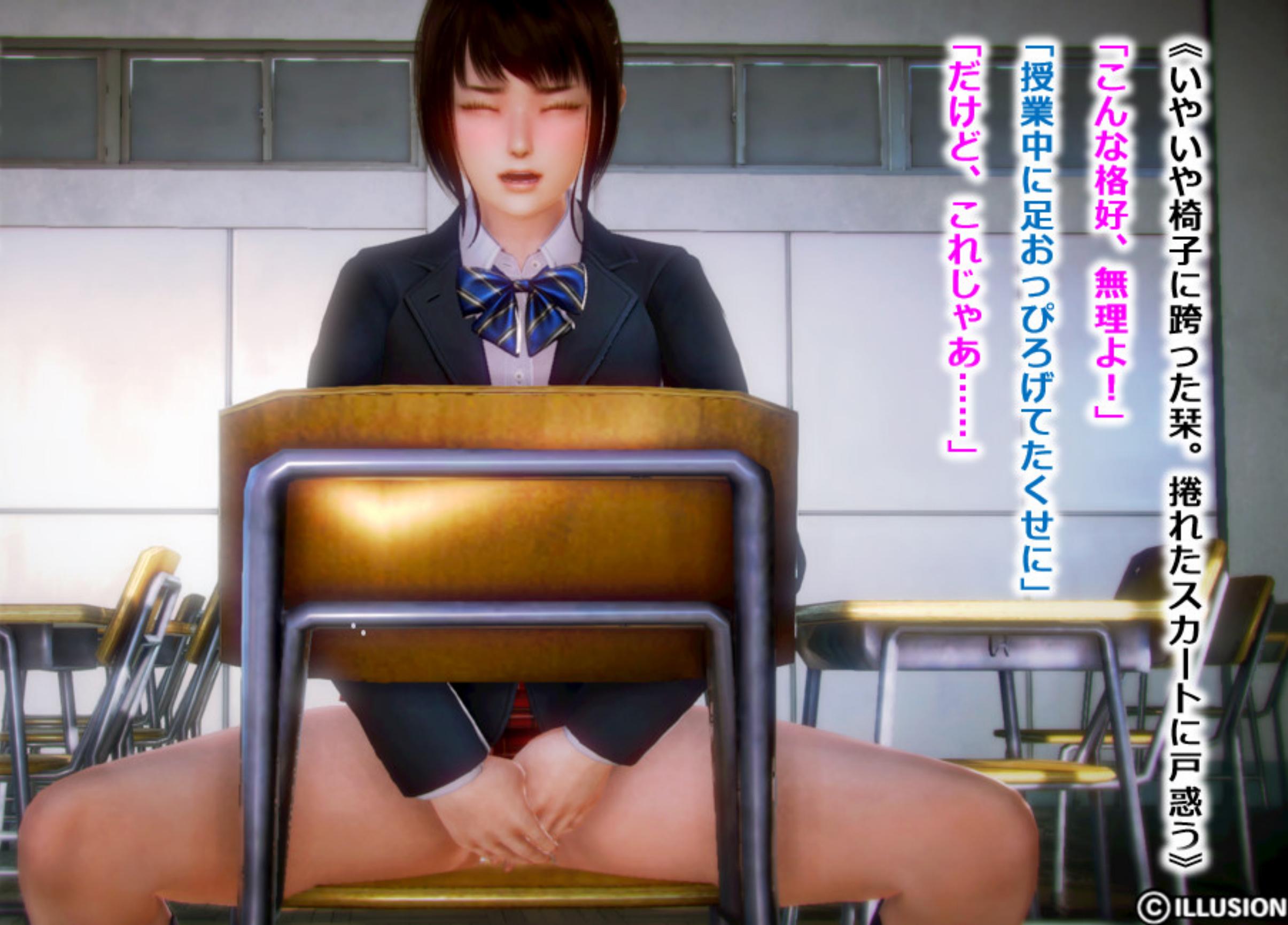
「授業中に足おつぴろげてたくせに」

「だけど、これじゃあ……」

「だけど、僕の指示通り、恥ずかしい写真を撮つてほしいんだつたよね？」

「それはそうだけど」（やっぱり変よ、こんな設定）

「まあ難しく考えないで、手を椅子の上に掛けてよ」
（こつちも見てるだけなのは辛いんだけど（笑））



『さんざん抵抗したが、結局命令に従つた栞』

「こ、これでいいよね……」

「これくらい普通だよ。はい、視線こっちに！」

「あの、やつぱり撮らないで……」

『パシヤパシヤ何枚も撮影する洋』

「もうこれ以上は無理。これで終わりにして」

「え、もっと撮らなくちゃ」

「……次はどうするの？」

「うーん、机の上に上がって、脚をガバッと開くとか」

「もう、いい加減にして！」『怒つて帰る栞』

PART 12

～教室でエロポーズ撮影②～

翌週

途中で撮影を終了したことについてお詫びのコメントを加えて画像を須藤に送った梨沙。

特に須藤からはレスがなく、ほっとして翌週を迎えたが…

《翌週。突然写真週刊誌に栞の記事が掲載される》

「え、何のこと？……やだ、何これ！」

【奈々】「涼川さん、この記事知ってる？」

「全然ないわよ！ひどい、こんな記事！」

「抗議するの？」

「それなら次のページも見た方がいいと思うよ」



「え、嘘？……何、この写真？」

「何つて、あなたが着た衣装でしょ？」

「ブルマとピンクの下着、男子が喜びそう（笑）」



ブルマなんて、ちょっと恥ずかしいです(涙)

みんなに喜んでもらえるように頑張ります！



ピュアな魅力の栞ちゃん、本誌は徹底応援します！

「須藤さんが連絡欲しいって言つてたよ」

「来週号はもつとエッチな写真載るみたい（笑）」

「……そ、そんな！」

《その日の夜、慌てて須藤に電話する栞》

その日の夜

栞：ひどいです、勝手に雑誌に載せるなんて！

須藤：君が約束破って撮影途中で帰るからだろ？

栞：……ごめんなさい。来週号は掲載しないでください。

須藤：来週号は、君のまあるいお尻を公開予定だよ（笑）

栞：そ、そんな……許してください、何でもしますから。

須藤：じゃあ、今度は指示に従うんだな……

《翌日の放課後。写真部員3人に撮影を依頼した栞》

「洋」「また撮影してほしいって、どういうこと?」

「この前はごめんね。急に恥ずかしくなっちゃって」

「今日は大丈夫なの?」

「うん……ほら、見て!」（は、恥ずかしい!）

《いきなり制服の前を開く栞》



【写真部員】「水色ブラ、可愛い!」

「今日はおしゃれなレース入りだね」

「やる気は分かったよ。どう撮ればいいの?」

「今日はポーズを勉強してきたから、それを撮つて

「へー、勉強ねえ」「可愛いポーズかな」「楽しみ」

「うん、よろしくね」（ひどい、須藤さん）

『3人の男子の前でスカートを捲り、机に手をつく栞』

「最初は、このポーズ」（いやあ、こんな恰好……）
「うわ、ケツ突き出し！」「いいねえ」「表情硬いよ」

「ご、ごめんなさい」（慌てて満面の笑みを作る）

『お尻を様々なアングルから撮影される』

「涼川は顔だけじゃなくてお尻も真っ白で最高だね」
「すべすべな感じ」「光が当たるよう向き変えて」
「う、うん……」（これでやっと2ポーズ……）



「次はどんなポーズ?」

「う、うん……ちょっと待つて」

『机に上がり、躊躇いながら脚を大きく開く栞』

「はい、これで!」『足がガクガク震える』

「え、こんなポーズいいの?」

「うわ、さすがにこれは(笑)」「顔引きつつてるよ」

「いいから早く撮って」(やつと3ポーズ目……)

『目を背けたくなるのを堪え、カメラを見つめる栞』

「ねえ、他の人には見せたら駄目だからね」

「分かってるって」「個人的趣味なんだよね(笑)」

『床に寝ころび、脚を上げる栞』

「こんなポーズ、どうかな?」（あと二つだわ……）

「ちよ、ちよつと」『動搖しつつカメラを向ける』

「ポーズの勉強つて……』「エロサイト見てきたの?」

「何のサイトだつたかな?」（須藤さんの指示よ）

「よし、じゃあ真上から撮るよ」

「いいねえ……』

「こっちに目線ね、につこりと!」

『真上からのカメラに笑みを向ける栞』

「これでいいよね？」（早く終わつて。あと一つ）

「すごい！ 最高に可愛いよ！」

「本当に涼川がこんな格好？」「写真部で良かつた！」

『舌なめずりして接写する3人』

「あの、もういいよね？」

「あ、ああ……」「あれ、誰か来るぞ！」

『廊下から女子数名の笑い声と足音』

「きや、きやあ！」「今日は終了！」「早く起きて！」

使用したプログラム・素材等

- 本作品は、ILLUSIONの「ハニーセレクト～コンプリートパック～」を使用して作成しています。[\(http://www.illusion.jp/preview/honey_party/index.php\)](http://www.illusion.jp/preview/honey_party/index.php)
- また、イリュージョン公式ページに投稿のキャラデータやシーンデータを活用しています。その他、個人HPに掲載の服なども使用しています。各作者の方に感謝いたします。
- 本作品のコンテンツの著作権は ILLUSIONに帰属し、販売等は認められていません。転載・販売等は行わないようお願いします。